

まちなかミュージアム

1.アイオワ州立歴史博物館モバイルミュージアム（米国アイオワ州）

特注のバスによる移動博物館が州を巡り、歴史を伝えるとともに博物館資料へ気軽に接する場を提供。



ツアーに使用されるバス
※画像はすべてアイオワ州立科学技術大学HPより転載



バス内の様子

2017年から実施されている、**バスで州の各地を巡る移動博物館**。移動博物館の構想は博物館ではなく、州文化局の組織する一般のコミュニティから生まれ、博物館の資料により簡単に触れられる機会として成立した。初回は2019年のツアー終了までに175か所に停車し65000人近くを動員。現在は「アイオワの歴史」をテーマに56点の遺物とビデオを公開しつつ2023年までに巡るツアーを実施している。

まちなかミュージアム

2.文化庁事業 メディア芸術×文化資源 分散型ミュージアム

日本各地の文化資源をアーティストが各地の空港で表現。訪日観光客へ日本文化と、その新しい魅力をアピール。



那覇空港内の展示ブース
※画像はすべてメディア芸術×文化資源 分散型ミュージアムHPより転載



高知竜馬空港内ブースにある、人の動きに合わせて
マンガのオノマトペが表示される体験展示の様子

国内10か所の空港で、日本文化をアーティストやクリエイターが表現した作品を展示する事業。各地域の文化資源をアーティストが作品として新しい視点から表現する。那覇空港では首里城をモチーフにしたインスタレーション作品、高知竜馬空港では「マンガ王国土佐」をテーマに体験型アート展示を行うなど、順次展開されている。

まちなかミュージアム

未来思考・未来創出

3.江之子島文化芸術創造センターenoco（大阪府大阪市）

大阪府20世紀美術コレクションの管理と活用を行う。公共施設等への収蔵作品貸出や、多様な分野の専門家による地域課題解決の相談窓口も開設。



収蔵庫と貸しギャラリー、カフェ等からなる拠点施設
※江之子島文化芸術創造センターenoco HPより転載



病院に設置されたホスピタルアート
※「船場経済新聞」より

施設自体は展示事業を行わないが、大阪府の現代美術のコレクションを所持しており府内各所へ作品の貸出を行っている。貸出先は美術館のほか、企業や病院といった公共施設など多岐にわたる。あまり美術とは縁のない場所にも貸し出すことで**美術と人を結びつけ、触れ合う機会を創出**。クリエイター等の専門家が地域活性や社会課題に取り組む市民団体や行政職員の相談も受け付けている。

まちなかミュージアム

4.たいけん美じゅつ場 VIVA（茨城県取手市）

駅直結の立地で、勉強や仕事の合間に藝大の本格的なアート作品に触れられる。5の「とびらプロジェクト」から派生したアートコミュニケータ事業も展開。



アートコミュニケータがイベントを企画するスペース
※たいけん美じゅつ場 VIVAHPより転載



常設展示やさまざまなワークショップの様子
※「@プレス」ニュース記事より転載

交流創出

支援・促進

7.八戸市美術館 ジャイアントルーム（青森県八戸市）

教える人と学ぶ人が同じ場を共有する、巨大なラーニングの場。様々なWS、レクチャー、展覧会などのイベントを同一空間内で展開。



2階からのホールの様子と可動できる床
※画像左2枚は日経クロステック記事より転載



開放的なイベントの様子

※画像は八戸市美術館Twitterより転載

館の入口に直結させた、巨大な多目的の吹き抜け空間を設ける。館内最大の展示空間でもあり、仕切りをすることで細かな展示スペースに区切ることが可能。他の部屋や廊下ともつなげることもでき、**企画展やWS、市民展示など多種多様なイベントを開催できる「アートファーム」の場**となっている。

交流創出

支援・促進

人材育成

5.東京都美術館 とびらプロジェクト（東京都台東区）

「アートへの入口」となることを目指し、東京藝術大学と連携してアート・コミュニケータを育成しながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぐ活動を展開。



とびら企画による作品を体験できるイベント
※画像は東京都美術館HPより転載



とびらによる対話型鑑賞会

交流創出

支援・促進

8.アーツ前橋 地域アートプロジェクト（群馬県前橋市）

福祉や教育、医療の現場にアートを取り入れていくプロジェクト。
多様な主体とともに、アートを他者理解や共生のために活用する方法を模索。



特別養護老人ホームでのワークショップの様子
※画像はすべてアーツ前橋HPより転載



母子生活支援施設で行われたタイムカプセル作りの
ワークショップ

アートの持つ創造力を通じて地域とつながる活動を展開。プロジェクト「表現の森」では、アーティストと前橋市内の施設や団体が協働する5つのプロジェクトを展開。アートが**福祉や教育、医療の現場に入していくことで起こる化学変化から、他者理解や共生など、アートによる対話を考えていく**。

人材育成

6.北海道大学博物館 パラタクソノミスト講座（北海道札幌市）

中～高校生以上の一般市民を対象に、モノを正しく見て整理する力を養う本格的な生涯学習系講座を継続的に実施。



鉱床パラタクソノミスト養成講座の様子
※画像はすべて北海道博物館HPより転載



昆虫パラタクソノミスト養成講座の様子

未来思考・未来創出

9.ふじのくに地球環境史ミュージアム（静岡県静岡市）

「本当の豊かさ」や100年後の未来の姿について来館者へ問い合わせ、思考を拓く展示やWSを展開。



極力解説を減らした展示室
※画像はすべてふじのくに地球環境史ミュージアムHPより転載



ミュージアムインターブリーザやボランティアは思考の
ヒントを投げかける

「百年後の静岡が豊かであるために」を活動理念として掲げ、百年後の静岡の「豊かさ」について考えさせる施設となっている。解説文やラベルを少なめにし、来館者が**自らが考えたり、館内にいるスタッフに尋ね対話することで思考を重ねる展示**を展開。WSでも対話型のイベントが毎日行われる。スタッフの他にいるボランティアのガイドもヒントを投げかけるスタイルとなっており、双方向の展示・コミュニケーションが徹底。